

パリで『日仏対訳 フランス医療機関におけるアート ——アートとリスク感性』(2023年3月31日刊行)の出版記念講演会

2023年3月31日、関西大学出版部から刊行された『日仏対訳 フランス医療機関におけるアート アートとリスク感性』(関西大学出版部)出版記念行事がパリの笹川日仏財団(Fondation Sasakawa, Paris)で開催されました。

著者の亀井克之教授(社会安全学部)が出版記念講演をフランス語で行い、本書で取り上げられた医療関係者、アート関係者と交流しました。また、パリ滞在期間中、本書に登場する、医療機関を訪ねて、フランス医療機関におけるアート導入を視察されました。





2023年3月31日、パリ6区。Fondation Sasakawaにて出版記念講演会。



本の第一部で取り上げられたフランスの医療機関へのアート導入を専門とする団体
アール・ダン・ラ・シテのレイチェル・イーヴン氏とラファエル・ヴィアル医師と。

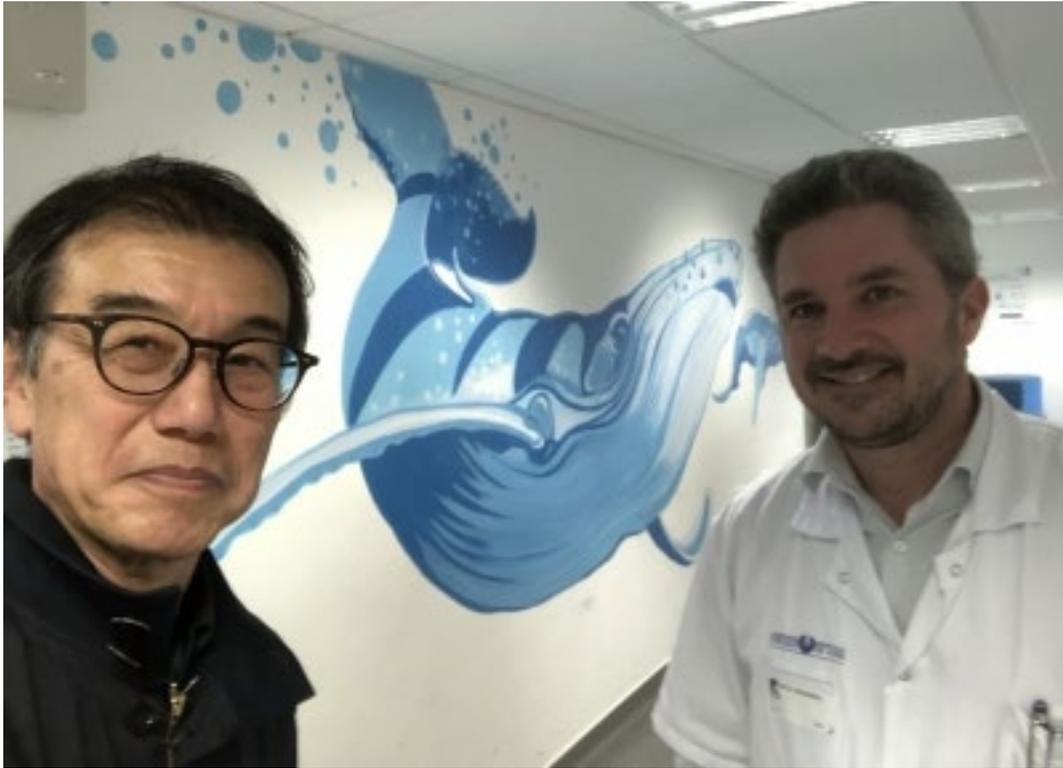


本書で取り上げられたデジタルアートの投影システムであるイリュミナールの開発者による解説。「森の散歩」「デジタル水族館」。入院患者、看護師、医師ら、このシステムを導入した病院では、病室の壁や天井に投影して、効果を発揮している。





4月2日、本の第2部で紹介した Hopital Sainte Marie の Florence Bonte 医師を訪問。アルツハイマーや認知症患者にアートセラピーや美術館などでのワークショップを実践している専門家。



3月31日、出版記念講演会の前に、アルマン・トルソー病院の小児整形外科、ラファエル・ヴィアル教授を訪問。子どもの待合室の環境改善のために設置されたアートやデジタル水槽。